

とすべきに似たれと未だ其物品を實檢せず且神名帳考證に大濱村日吉神社を大羽神社とし又土人の口碑にしか云傳と云れば決めがたし

都久夫須麻神社

祭神 淺井姫命

今按色葉字類抄竹生島在近江國云々昔淺井姫命與氣吹雄命競勢争力更去丸邊下坐海中其下海音稱云都布々々故云都布夫島即件神凝水沫而爲聲積風塵而作島又召諸魚令運重石字今云魚崎魚進集之處也名諸島令落殖木種今猶衆島來集之峯也如此歷功長成林最初竹篠出故云竹生島云々又帝王編年記に夷服岳與淺井岳相競長高淺井岡一夜増高夷服怒拔刀劍殺淺井姫之頸墮江中而成江島名竹生島其頭乎とあるを以て考るに祭神淺井姫命なること著し然るを神名帳考證に市杵島姫命と云ひ縁起略に天照大神分身とあるは共に當らず

神位 孝謙天皇天平神護元年竹生島明神授從五位上勳八等 色葉字類抄

祭日 郷社(縣社)

所在 竹生島(早崎村字竹生島)(東淺井郡竹生村大字早崎)

伊香郡四十六座

大一座小四十五座

伊香具神社

祭神 伊香津臣命

今按帝王編年記古老傳曰近江國伊香郡與胡鄉伊香小江云々伊香刀美與三女弟女共爲室家居於此遂生男女云々此伊香連等之先祖是也とある伊香連は新撰姓氏錄伊香連大中臣同祖天兒星根命十世孫巨知人命之後也とみえたる同族にて伊香刀美は同書一本に天兒星根命天押雲命天多禰子命宇佐臣命大御食津臣命伊香津臣命巨知人命とある伊香津臣命是也荒木田系圖の世系も之に異なる事なし上件の書ともを合せ考へて伊香具神は伊香津臣命を祭れること明かなり

神位 清和天皇貞觀元年正月廿七日甲申奉授近江國從五位上勳八等伊香神從四位下八年閏三月壬子近江國從四位下勳八等伊香神授從四位上

祭日 四月廿四日

社格 郷社(縣社)

所在 大音村(伊香郡伊香具村大字大音)

乃彌神社

祭神

天八百列神社

祭日 四月八日 大明神

祭神

祭日 四月二日

社格 村社

所在 熊野村(伊香郡古保利村大字熊野)

乎彌神社

今稱春日神社

祭神

祭日 四月八日

社格 村社

所在 字根杵(伊香郡南富永村大字字根)

今按この社所在下余吳村大見村にありと云へど余吳村なるは舊號海宮神にて乎彌神に由なく由緒も詳ならず大見村なるは舊號牛頭天王社と云るを明治五年より改て大見神社と稱すと云るのみにて證なし唯だ字根村なるは注進狀を閲するに字乎彌社にありと云るにて舊號乎彌明神中古春日明神と號し明治五年五月十日春日神社と改む云々又小民の口碑何くれと掲載たるや證とするに足れり故今之に従ふ

走落神社

祭神

祭日 四月九日

社格 村社

所在 黒田村(伊香郡木之本村大字黒田)

今按神名帳考證中臣伊香津臣命子製述臣命ならん邦志刀美と乃美と語近しとあれど伴信友説に此説諸がたしされど姑く此説に就ていは乃は刀の誤とすべし編年記には伊香刀美とありと云りかくて猶考るに伊香刀美の子に那志等美あり那志等美は即製述臣命なること荒木田系圖にみえたりされどよく考へて後に定むべきなり

祭日 三月八日七月廿日

社格

所在

神前神社

祭神

祭日

社格

所在

大澤神社

祭神 黒田神社と合祀

祭日

社格

所在 黒田村

祭日

社格

所在 黒田村

祭日

社格

所在 黒田村

祭日

社格

所在 黒田村

祭日